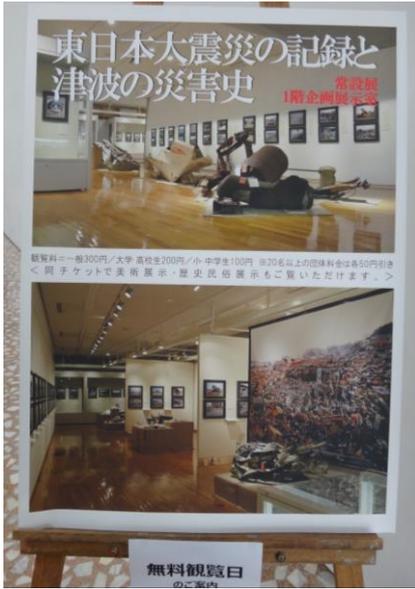


26年度 被災地支援トピックス-14

NO14-1

11月3日「語り継ぐ・聞き継ぐ」 気仙沼・陸前高田-1



第一回の訪問です。PR期間が短かったのですが多くの参加者と訪問出来ました。初めての方に混じり、再度の訪問で街の復興状況を確認したいと参加された方もいます。最初はリアスアーク美術館に津波災害を知る事の出来る写真、展示物を見て貰いそれから街に入りました。(街では被災の状況を知る事が出来ず、参加者からは美術館見学が良かったとの声がありました)



ガイドの安部さんです。平成24年からお世話になっています、自身が被災した地区の中央公民館前で当時の状況を語ってくれました。
 津波、火災と極限状態で
 周囲は土地かさ上げ工事の真っ最中でダンプカーの往来が激しいです。



南郷ボラ宿の熊谷さんと自治会長伊東さんから震災発生時から、現在の地区の復興そして問題点など語って貰いました。伊東さんは学校屋上から避難を呼びかけた事、熊谷さんは実家の有る学校で子供達が被災者にオニギリを半分にして多くの人に配れるよう活動していた事を語ってくれました。



帰路は陸前高田を経由しました。街全体をかさ上げするような、大規模な工事が進められています。交流のある第一中仮設の高橋さんの元自宅跡地に「産直」の店があります。地区の海産物を販売されており、参加者からは秋田への御土産を買って頂いています。

26年度 被災地支援トピックスー14

NO14-2

11月9日「語り継ぐ・聞き継ぐ」 気仙沼・陸前高田ー2



第2回の企画です。陸前高田の街は10m以上の土地かさ上げ工事の真っ最中です。土砂の運搬に100億円以上かけたコンベアが稼働しています、近くによると驚くほどの高さです。復興住宅の一号が完成し新居に落ち着かれ、安心な生活が始まっています。(入居者の話・「土の上に住みたい・・・」 = 今まで戸建てに住んでいたので玄関開ければ土が有り、庭も、畑も有ったとの想いから出た声でないでしょうか・・・)



高田ガイドの實吉さんです。震災前の写真と対比しながら被災の状況を語られました。何も無い高田では写真が随一、当時を知る手掛かりです。



気仙沼南郷ボラ宿の熊谷宅で当時の出来事、現在の状況を語って貰いました。熊谷さんはボランティアの活動が地区復興を速めたと言われた。行政待ちでなく住民が立ち上がった結果だろう・・・。



気仙沼を立つ前の買物は、被災した商店の仮設商店街です。今年はカツオが不漁で「残念」の一言です。年末正月準備の買い物に気仙沼へ来たいとの声もありました

26年度 被災地支援トピックスー14

NO14-3

11月15日「語り継ぐ・聞き継ぐ」 気仙沼・陸前高田ー3

秋田自動車道は雪景色。秋田国際教養大学(AIU)留学生との企画です。朝早くの出発なので遠野の入口でコンビニタイムを取りました。買物は意外に日本学生と同じような食べ物でした、若者は世界共通？かな。陸前高田は晴れ風強く寒～い天気でした。体の大きい学生さんも心持ち体を丸めてるようでした。



高田の街を巡り高田一中仮設住宅集會場で昼食後、住民の方々と交流会をしました。勿論会話は通訳して貰いましたが、心が通じあえたと感じました。学生からは現在の支援について、住民からは日本留学に反対されなかったか等のやりとりがありました。被災時の話をされた方もいて、学生達のじっと聞き入る姿が印象的でした。



気仙沼ボラ宿で熊谷さん、伊東自治会長からビデオで震災時の状況を話して貰いました。熊谷さんは地震の揺れが治まり直ぐに高台の実家に避難した事、伊東さんは学校の屋上から堤防で津波を見ている人に避難を呼びかけた事。学生さんにはどう伝わったろうか…。今回の体験が学生生活そして帰国後も活かされる事を願っています。